

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
平成 29 年度 第 5 回地域生活支援部会 会議録

日時 平成 30 年 2 月 7 日 (水) 10:00~12:00

場所 乙訓保健所 講堂

出席者 13 名

基幹相談支援センター・キャンバス・乙訓ひまわり園地域連携室・NPO 法人こらぼねっと
京都・乙訓若竹苑・晨光苑・乙訓やよい会・乙訓の障害者福祉を進める連絡会(2)・乙訓保
健所福祉室・向日市障がい者支援課・長岡京市障がい福祉課・大山崎町福祉課

欠席者 1名

京都府立向日が丘支援学校

事務局 2名

傍聴者 2名

配布資料

- ・次第
- ・平成 29 年度地域生活支援部会活動報告 (案)

議事の流れ

1. 地域生活支援拠点に必要な機能について

2. 今年度のまとめと来年度の予定

(部会長)

・第 5 回地域生活支援部会を始めます。活動報告 (案) についての検討をしていきたいと思います。今
日の次第に地域生活支援拠点についてのことを少し書き込んでいます。このことも横に置きながら活動
報告 (案) を確認していきたいと思います。

※平成 29 年度地域生活支援部会活動報告 (案) 1. 設置の目的、役割等 読み上げ

・名称については公式に残る文書なので「協議会」は「乙訓圏域障がい者自立支援協議会」と正式名称
にした方が良いと思います。

(委員)

・「日中活動の場所」というのがハードのことだけではなくてと思うと「日中活動の場の確保」等の方が
通る気がします。

(委員)

・「日中活動の確保」と切ってあり、「放課後の過ごし方」や「短期入所」等は後ろまでいって「確保」
が付いているので、別に「日中活動の場、」で良いと思います。

(部会長)

- ・この「日中活動の場」というのは子どもに限定しているのではなく、どちらかというと就労系の成人をイメージしています。

(委員)

- ・「不足している」が短期入所とグループホームにしか係っていません。全部不足しているから出てきている話です。全部にかけるか取ってしまうかだと思います。

(部会長)

- ・「日中活動の場」を「不足している」の後に入れたら意味が通ります。

日中活動については全員入れているという議論もあり、不足というのは席の数が人数の数と合えば良いということではなく、選択肢があることが大事だというのが議論の中であがっていた意見です。

※2. 昨年度までの経過 (1) 活動と取り組み 読み上げ

- ・28年度の報告の「今年度の協議内容」の「まとめ」と「今年度報告を受けたこと」の中からまとめてもらったものです。

(委員)

- ・最後の段落、「このアンケートの結果から」の「障がいがある人自身の体調の悪化や精神障がいがある人の不安」は協議していないので、「協議をしていくことを確認しました。」で良いと思います。

(部会長)

- ・1では「障がいのある人」という書き方が、2では「障がいがある人」という書き方になっています。どちらかに統一した方が良いので、この部会では「の」が良いということで事務局、運営委員会で整理してもらうことにします。

(委員)

- ・報告書の「経過」のところで、アンケートを皆さんに知っていただくことであれば「ホームページへの掲載すると共に相談支援事業所を通じてお答えいただいた方にも結果をお返ししました。」とする方が良いと思います。

「回答者それにより」は回答者の何がそれとなるのかとなるので、「立場や考え方によって緊急の受け止め方が違う」等、文章を補った方が良いと思いました。

(委員)

- ・次の段落が「このアンケート結果から」と、「このアンケートを行った結果」でまた「このアンケート結果から」となるので、そこをうまく繋げていただいた方が良いと思います。

(部会長)

- ・その前の段落は「回答者それの状況により」で良いですか？

(委員)

- ・「それにより」を抜いて「回答者により『緊急』の受け止めが」とした方がすっきりとします。

(委員)

- ・回答者目線で言うならば「を求めておられること」になると思います。その続きに「このアンケート結果から」を取った「緊急時の受け皿の不足等の」を「受け皿不足等の地域課題があること」として、

それを「こと」の後ろに入れたら文章が繋がると思います。

その次に「また、障がいがある人自身の」と繋げていけば文章になると思います。

(部会長)

・「このアンケートを行った結果、回答者により『緊急』の受け止め方は違うものの、多くの方が『夜間・休日を通した24時間の対応ができる地域での体制づくり』を求めておられることや緊急時の受け皿不足等の地域課題が明らかとなりました。」ですね。

(委員)

・「障がいのある人自身の体調の悪化や精神障がいのある人の不安について」の「不安について」、何を協議することを確認したのか。悪化した時の課題、不安の原因、そういうものは補った方が良いと思いました。

(部会長)

・昨年度までの経過なのであまりここを補填しすぎてもと思います。

「また障がいのある人自身の体調の悪化や精神障がいのある人の不安についても協議をする必要があることを確認しました。」とするか、「不安についても引き続き部会で協議をする必要があることを確認しました。」とするのかだけお願ひします。

(委員)

・最初の方で良いと思います。

(部会長)

・では入れないで、「また障がいのある人自身の体調の悪化や精神障がいのある人の不安についても協議をする必要があることを確認しました。」でいきます。報告事項についてはそのままですね。

昨年度の報告を受けて今年度どんな風にやったのかの引き継ぎが確認できるように、ここで前年度の報告があえて入っています。「前年度を引き継いで」と今年度の活動を書いてしまうと前年度の資料を見直さないといけなくなるので、今年度に反映できるようになっていて、事実に齟齬がなければそれで良いと思います。

確認していきます。

※（2）報告事項 読み上げ

・①ですが、去年の報告書の中には「定員増として検討していくという報告を受けました。」となっています。報告は今年度ではなかったですか？

(委員)

・28年度に報告させていただいたと思います。夏までに回答するという前提があったので、秋を迎える前のタイミングで言わせていただきました。

(部会長)

・28年度のうちにもう「検討する」ではなくて、この「対応する」という報告をされているのですか？昨年度の取り組み報告ではそうなっています。今年度は昨年度がこういうことになったからということをふまえるので、変わっていますが昨年度中のことということで新しい文章の方で良いですね。最終、部会として、28年度最終時点では部会として受け取っている報告はのことです。

昨年度の最終時点の報告事項を元にして、今年度の活動したということなので①についてはこれで良いですね？

(委員)

・ただ、「1名増やすことで対応するという報告を受けました。」と生活介護事業の定員増について問われていて、日中一時に対応しますというのはかけ離れた別個の話なので、「生活介護の定員を増やす、平成29年4月から日中一時支援事業の定員を1名増やすという報告を受けました。」というのが正しいです。

(委員)

・日中一時の1名を増やす時に緊急時枠としてもう1名ありますよね？その報告はされていませんよね？

(委員)

・そこを含めての報告はしていなかったので、単純に4名から29年度5名に増やさせていただきました。緊急枠までの報告はできていなかったので緊急枠を含んではいません。

(部会長)

・緊急枠も1人増えているのですね？

(委員)

・緊急枠というのも月10時間の枠内で設けさせていただいたということがあります。5名の定員プラス緊急枠1名というのが家族の病気や葬儀等の限定的な使い方です。枠としては29年度からです。

(部会長)

・生活介護事業の定員増を検討してと言われて、結果として8月までに報告するというところで定員は増やしませんという報告ですね？

(委員)

・そうです。

(部会長)

・定員を増やして下さいという投げかけに対しては増やしませんという回答だったと思います。若竹苑としては日中一時の定員を1名増やしましたよということは生活介護の定員を増やしてねというアプローチに対してはしませんという答えになったけれども、日中一時の利用者枠を4名から5名に1名増やします。条件はありますが緊急枠でもう1名、条件が合えば対応することが可能ですかという報告ではなかったですよね？

(委員)

・ではなかったです。

(部会長)

・これは部会での報告事項なので、部会での報告として限定します。

②にいきます。これは変更がないので良いですね。③はこれで良いですか？

(委員)

・正式名称ということであれば短期入所という言葉を使う方が良いと思います。

「事業所担当者の方から」というのは「事業所の担当者から」の方が良いと思います。

(部会長)

- ・では④にいきます。これで良いでしょうか？ ⑤にいきます。これで良いですね。
- ⑥にいきます。第6回部会を消します。今年度が研修に繋げていくためによりわかりやすく確保と定着ということを書いてもらっていますが、それでよろしいですか？ では、3にいきます。

(委員)

- ・「その他」は必要ですか？

(GM)

- ・主なことがなければ、入れる必要はないですが、他の部会とのバランスはあります。

(部会長)

- ・次第は「その他」ですが、その場でやったことや報告、話題等を本来入れるべきところではあると思います。大きなことというのは今年度ありません。

地域生活支援部会としては「その他」はいらないのではないかという案で他の部会の報告書とあわせて検討を運営委員会の方でしてください。

「4 今年度の活動」にいきます。

※4 今年度の活動 読み上げ

(委員)

- ・「態勢」の意味がわかりません。

(部会長)

- ・国は言っているけれど何なのかわからないから勢いを付けて構えを持とうぐらいの勢いだったと思います。去年から今年への進展と考えられるのであれば、今年度については「態勢を協議した。」になります。「態勢について協議をする」というところではなく、「協議した」となっているので、構えについて協議をするというより、具体的な方が良いと思います。

(委員)

- ・次第の1行目に「機能の問題点」とあるので、それを持ってきた方がわかりやすいと思います。

(部会長)

- ・その方が進展感があるかもしれません。

今年度については何について、何があったら良いのかを考えたら良いというところで、色々な情報を行政から説明していただいたりということをやってきているので、今年度の取り組みとしては「機能について協議しました。」とシンプルにしますか？

(委員)

- ・「また、」からのところで、「歴史や特色等を学んでいただき」で、その後の「興味」というのが引っかかります。既に入っている人なので「やりがいを持って」とか、「定着」も何か違うように思うので「続けていただるために」の方が良いと思いました。

「新任職員連続講座」とあるのですが、上のレジュメの抜粋は「若手職員」なので統一した方が良いと思います。研修のカリキュラム等をここに入れられるなら、より具体的になると思いました。

(部会長)

- ・添付資料として参加者の人数やカリキュラム、アンケートのまとめ等は付けないといけません。

(委員)

- ・この資料には「新任職員」となっていて、次第には「若手職員」となっています。

(G M)

- ・最後に変わりました。

(部会長)

- ・「若手職員」といって議論してきたのですが、最後、チラシを出す時に「若手」というのは何歳までということになりました。受け取った側が誰を出すかで躊躇するということで「新任」に変わった経過があります。

(G M)

- ・括弧書きにします。変更になったということで「若手（新任）」と書きます。

(部会長)

- ・括弧書きにして（新任）と入れます。活動報告を括弧書きにして、本文中は「新任職員」でいきます。

「(2)まとめ」の方はどうでしょう？

(委員)

- ・今年度の取り組みの第2回部会のところに行政が説明した項目だけでも良いので、国資料の説明等を入れると、こちらは受けやすいのかなと思います。

(部会長)

- ・それは資料から拾えます。

第2回部会の行政説明の中に国が示した資料に関する説明とこの地域での取り組み方についての項目立てをします。

まとめのところでは「乙訓地域生活支援拠点に必要とされる機能について、部会では24時間365日電話対応ができる仕組みが欲しい、どういった専門性が必要なのか、今ある地域資源でできるのか等の協議を行いました。」とします。

その協議の中で「やむを得ない事情により通所事業所で～対応を」は「対応は」にした方が良いかもしれません、「『緊急』の～報告がありました。」で、でもその後の機能は欲しいということです。

(委員)

- ・「また」以下はいるものですか？仕組みにはなっておらず、人道的にやってくれていることで、ここに書くことなのかと思いました。

(部会長)

・もし、ここにこれを書くとすれば現状では人道的配慮の範疇でやっているけれど、その後のフォローの仕組みがいる、緊急ではするけれどもそれを繋ぐところがないと困るという話は出ると思います。

ここに言及するのであれば、これは活きてきます。でも、これをやっていますと言ってしまったら、恒常的な支援ではなくて人道的対応であって、報酬単価が発生する支援でもないので、これをやっていくということはできないという話をしたと思います。

どう入れておくかです。話をしたということを記録として残しておくためには、入れておかないといけません。「行いました。」というまとめであってもかまわないとは思います。

(委員)

- ・部会として生活介護の事業所には聞いてくださったので、それは入れた方が良いと思います。

(委員)

- ・「今年度報告を受けたこと」に入れたら良いのではないですか。

(部会長)

- ・議論の中で受けた報告なので、その議論の中身をどこまでまとめに入れるかという問題だと思います。

(委員)

- ・先に「生活介護にこういう理由で問い合わせをしました。」というのを書かないとダメです。

(部会長)

- ・そういうことです。非常事態の場合の配慮と報酬単価に結びついていくような支援の仕組みというのは整理をしていかないといけないという話の流れのことです。

ちゃんとやらないといけないという議論の流れの中のことなのでどんな文章にして入れていくか、触れないとどこにもあがってこないので上手に触れた方が良いと思います。今年度のまとめは来年度にきちんと反映させていかないといけません。

(委員)

- ・「電話対応ができる仕組みが欲しい、どういった専門性が」というのは電話対応の続きですよね?

緊急時に支援する場合には直接支援と電話対応とがあるという説明がありません。「今ある地域資源でできるのか」も電話対応だけにかかっているのか、直接支援のことも入れてくれているのかもわからないので、「また、」の後が全然活きてこないと思います。

(部会長)

- ・直接支援はここに入れるしたら、具体的にどんな言葉になりますか？

(委員)

- ・「地域生活支援拠点に必要な機能について」を提案するになっているのですが、これをまとめに入れるべきなのか、もしかしたら「5 次年度の課題と方針」の方に入れるのですか。

(部会長)

- ・今年度の部会としては新たなことを何かするということではないです。

(委員)

- ・5の次年度の課題と方針の方ですね。これを今のまとめに入れたいということですね。

(部会長)

- ・「地域生活支援拠点に必要な機能について」の議論は継続議論になっていきます。

今まで議論してきたことの中で、どうまとめの中に盛り込んでいくのかとを来年度の議論に活かされるようにここに言葉を入れていきたいです。

「地域生活支援拠点に必要な機能について」、来年度に議論していくための元になるものをまとめの中に文言として入れていきたいと思います。今まで色々なことを話してきたことは事実としてあるので、今言われているように電話対応以外の話もあったというところの何をここに入れたら来年度により繋がっていきやすいかという提案をしてもらったら、優先順位をつける提案のところにも繋がっていきます。

(委員)

- ・ここで、この地域で必要とされる機能で24時間のファーストコールが書いてあり、緊急時に安心と派遣を言っていたのですが、直接的支援はずつと言っていたと思います。

(部会長)

- ・それをもう一回ここで言ってください。

(委員)

- ・とりあえず預かりです。人を派遣、その後に繋がる直接支援です。ショートステイしか書いていないので家に派遣とか一緒に連れていくてもらう等の派遣は絶対です。

(部会長)

- ・緊急事態の見守りとか、見守りや移動に対するということですね。

(委員)

- ・日中一時も預けられる場所に入るなら書いておいてほしいです。

(部会長)

- ・預ける場所がどこなのかも、これからあってほしい機能として検討することなので今ここで限定はしません。24時間365日電話対応ができる仕組み、ファーストコールがほしいということとどういった専門性が必要なのかと見守りや移動の支援みたいなものも必要ということですね。

(委員)

- ・先程、「昨年度までの経過」の中に書いてあった「夜間・休日を通した24時間の対応ができる地域での体制づくり」ということで、24時間コールと預かり先とかでまとめてもらった方が良いと思います。

(委員)

- ・この部会で語らないといけなかったことは何なのか、語ったことは何だったのかという部分をまとめてしまったら良い気がします。

「24時間365日緊急時対応のあり方」、その中に含まれるものとしては電話対応ができる仕組みの必要性、見守りや移動に係る支援のあり方、ショートステイや日中一時での受け入れ方というのがはまつてくるのかと思います。

(部会長)

- ・この文章を今ここで仕上げるのは非常に無理があると思って進めています。

具体的に「仕組みが欲しい」という文章にするのかどうかはともかく、「24時間365日のファーストコール」と見守りなり移動なりの支援、一定の期間の居場所を確保する日中一時、ショートステイ等の安心していれる場所の確保があがってきた言葉だと思います。それを盛り込んだ形でまとめのところに書いて、優先順位をどうつけるのかというのが今後の議論になっていきます。

優先順位と仕組みをどう作っていくのかという議論は次への引き継ぎ課題というまとめになつたら良いと思います。

今年度の中で事業所に聞き取りをしたところで、通所だけではなく、色んな事業所が緊急対応しています。それがきちんと次へ繋がっていく支援としての仕組みの構築が必要であるということを書いたまとめにします。現状ではやむを得ず行っている対応ではなくきちんと支援に結びついていく仕組みを作ることが望まれるので、そのための協議を引き続き行う必要があるというまとめになるのだと思います。

(委員)

- ・今年度、機能について話をしたことで2つあったと思います。ひとつはファーストコールを受ける人の専門性をどう確保するのかということです。24時間365日連絡が可能であることは利用者にとっては安心だという話があり、受ける側の立場からは障がいの内容がよくわからない人から電話を受けるということが非常に不安だという声も一方で出たと思うので、事前登録制にする方法もあるというような話

もあったと思います。議論の経過をふまえてまた次の議論ができるかなと思うので、そういう経過がある程度わかっている方が次年度に繋がりやすいのかなと思いました。

もうひとつが自宅に派遣ということと再発予防等の話もありました。事後検証ができる機能を持たせるべきだということや緊急に宿泊ができる機能等がありました。

(部会長)

・この話は同時にこのレジュメの1の話とリンクして来年度に繋がっていく話なので議論する価値は十分にあると思います。来年度に引き続いて議論していくものであることが一点と、もう一点は今年度のまとめとしての文章立てをきちんとするという作業があります。

この議論の中身としてはもう一度集まりたいと思います。このまとめの文章と次年度の課題と方針は一緒に考えるというか分割するだけの話になります。

どんな風な言葉を盛り込んでおいてほしいのか、どんな言葉が入っていることがより繋がっていきやすいかがあればお願いします。

もう1回部会をさせていただくということで、それまでにここの文章の案を直前になるかもしれませんのが皆さんに流したいと思います。

(委員)

・地域生活支援拠点がこの地域で大きな大事なことだと思うのですが協議していくには困難というか難しさを感じています。相談支援部会でも話されているので部会の住み分けというのもあると思います。この部会では事業所が出てくるのも難しそうで、事業所がいない中で話し合うのも、事業所にとって自分達に課題を突きつけられるという中での発言も難しい面もあると思うのでプロジェクトみたいなもので忌憚のない意見、率直なところを出し合えるような場で地域生活支援拠点について話し合うやり方にした方が良いのではと思います。

(部会長)

・地域生活支援拠点について、どんな風にするかということについて議論する場や具体的に作業する場というのは別立てで設けられていくのだと思います。地域生活支援部会としては何を求めるか、地域生活支援拠点をどうするかではなく、そこにあって欲しい機能、この地域の中で不足している機能や無い機能も含めて地域生活支援部会の中では議論をしていきます。地域生活支援拠点をどうするかは地域生活支援部会で話することではないです。

地域生活支援拠点というものができるのであればこういうことを盛り込んでほしいという地域の課題を明確にして、あってほしい機能と優先順位をあげていくというのが部会の仕事になります。地域生活支援拠点を作っていく時に色々な立場の人達の意見が反映できるような形式をとってほしいという意見を部会からあげることはできるので、そういう形で運営委員会に戻します。

(委員)

・拠点はハードのひとつという意味ではなくて、そこに連携等を含めてのものとして考えたら部会と全然違うと思います。

(部会長)

・全然違うのではなくて、物事の決め方です。できるだけ当事者や家族や事業者、直接処遇する人達の意見が反映できるようなものの作り方をしてほしいというのが部会からあげていく意見です。

自立支援協議会は地域の課題を明確にして、どんなことが課題で、どんなものがほしいか等の意見をあ

げていきます。プロジェクトにこんなものがほしいという意見をあげていくのが部会なので、今言われたことは部会からの意見としてあげてきます。部会で何をするかということについては別の話として、同じようなテーマがあがっていることも事実なので、部会構成をもう一回やり直して意見をくみ上げやすい、意見交流しやすい部会構成にするかということ再考をしてほしいという意見もこの部会から運営委員会にあげます。

(委員)

- ・それでお願いします。

(部会長)

・今後の部会の構成の仕方や話の進んでいく方について、皆が意見を言って議論が前に進んでいく形の会議をきちんと持てるような構成員だとか運営だとか皆の協力ということを考えていかないといけないということで今日は閉めさせていただきます。

(委員)

・「今年度報告を受けたこと」は向日が丘と書いてありますが今年度は何も受けなかったということで良いですか？

(部会長)

・それは毎年いただいている報告で、学校だけのことではなくて地域全体で把握していきましょうというのがこの圏域の地域のあり方なので、次回にまとめたいと思います。

(委員)

- ・講座のアンケート結果等の報告はありますか？

(副部会長)

- ・感想はとっています。まとめという形で出させていただきます。

(部会長)

・研修の詳細については別紙という形で添付資料として載せます。その添付資料については次回検討していただきます。

(委員)

- ・夜間の緊急時の受け入れとなると晨光苑になるのかなと話は聞いています。

現場で働いている生活支援員から出てくる答えとしては専門性の話、相談を専門とした職員ではない職員が働いているので新人職員同士が夜勤になることはまずないのですが電話がかかってきた時に十分な対応ができるかといったらかなり不安が残ると思います。夜通しづつとコールもなっていて、事務作業等たくさんある業務の中でやはり不安はあるかなと思います。どこかに繋ぐ中間的な役割ということで繋ぐ場所が決まつていればできるのかもしれません、それが決まっているのであれば直接そこへ電話をしたら良いという話になります。私は会議に出て来ているので色々なニーズや話を聞いているから対応できるのかもしれません、課題はまだまだ整備していかないといけないと思います。

(部会長)

- ・時間になりましたので終わりたいと思います。

次回定例会：3月2日（金）